

北京連合大学訪問報告

筑波技術短期大学障害者高等教育センター¹⁾ 筑波技術短期大学鍼灸学科²⁾

筑波技術短期大学教務二課技術係³⁾

大武信之¹⁾ 形井秀一²⁾ 藤井亮輔²⁾ 小野瀬正美³⁾

要旨： 筆者4名は、平成16年3月1～2日にわたり北京連合大学・特殊教育学院を訪問した。本訪問により、中国における視覚障害者の高等教育、および按摩教育・資格制度についての現状把握ができた。本レポートは、特殊教育学院および関連する機関の訪問報告である。

キーワード： 北京連合大学特殊教育学院、北京市盲人学校、中国盲人按摩中心

1. はじめに

中国において障害者のための最高学府として存在しているのが北京連合大学・特殊教育学院である。本学院の設立には、鄧小平の子息である鄧朴方の力が大きい。鄧朴方は文化大革命時に脊髄損傷を負い、自身が障害者であるため、障害者教育に熱心である。北京連合大学・特殊教育学院の紹介パンフレットや学内資料等には、鄧朴方の紹介記事が随所に見受けられる。中国の視覚障害者数はおよそ900万人で、うち約500万人が全盲者といわれているが、その詳細は正確に把握されていないのが現状である。本レポートは、北京連合大学・特殊教育学院の現状、および関連する北京市盲人学校、中国盲人按摩中心(センター)を2日間にわたり訪問した報告記である。

2. 北京連合大学(3月1日・午前)

北京連合大学は、師範学院、情報学院、管理学院、観光学院、教育学院、広告学院、文理学院、特殊教育学院、機械電力学院、オートメーション化学学院、ビジネス学院、国際語言文化学院、生物化学工学院の13大学からなる連合大学である。今回訪問した特殊教育学院は、国語・数学・英語・共產主義・体育を担当する基礎部、芸術・広告装飾・ピアノ調律の教育部門である芸術学部、特殊教育教員養成部門、特殊教育教員訓練センター、ガーデニングと鍼灸按摩の教育部門である生物・医学部、コンピュータ教育の電子情報部、ヒアリング能力・言語回復を担当する技術学部に、聴覚障害学生および視覚障害学生を受け入れている。

会談の内容は、双方の大学の実情を、鍼灸および按摩を中心に理解することから行われた。日本と中国の最大の相違点は、日本では全盲が鍼灸師として活躍できるのに対して、中国において全盲は按摩に限られる。

日本で行われている鍼灸の治療が行えるのは、中医師の資格を持つ晴眼者である。北京連合大学・特殊教育学院には、高校を卒業した者(18歳)が入学し、5年の教育を受けた後、医学按摩師の資格試験を受けることができる。同学院は、開学してまだ3年で、講義は理論を中心に行われ、実技は余り行われていないそうである。中国における医学按摩師の制度は複雑で、同学院の計らいにより中国盲人按摩中心を紹介された(4節参照)。

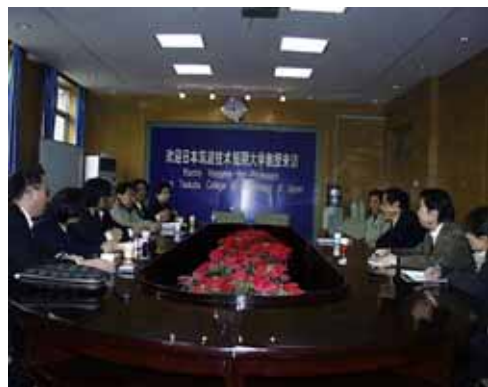


写真1：北京連合大学・特殊教育学院

3. 北京市盲人学校(3月1日・午後)

北京市盲人学校は、総基130年の歴史のある学校で、幼児部は4歳から、小学校は6歳から、中学校は12歳から、高等学校は15～18歳で構成され、4名の重複障害を含む全173名の学生が在籍している。高校からは、大学進学を目的とする普通科、ピアノの調律を学ぶ調律科、および按摩科から成っている。普通科は、出来てまだ2年である。調律科と按摩科は、主に北京連合大学の特殊教育学院へ進学している。また盲学校は全国に20校、他に聾の教育なども兼ねた学校が30校余りある。北京市盲人学校は、中国を代表するモデル校と考えられ

るが、本校の教育レベルが、中国全土で行われているかは不明である。

中国語の発音はつづりとしてのピンインと、その抑揚を表す音調で記述し、音調には四種類有り、これを四声という。中国語の点字の記述は、ピンインと音調(四声)を完全に記述することは不可能で、正しく記述されている部分は40%ほどであるとの説明を受けた。中国語の点字の現状を補うため、小学1年の時点から教育用にパソコンを使用した授業に取り組んでおり、近年スクリーン・リーダーを活用している。中国の点字図書作成は、中国盲文出版社が点字図書や音声製品などを出版している。現在、年間150種類、6万冊の点字図書が発行されている。



写真2：北京市盲人学校（右：女性副校長）

かつて日本の盲教育においてピアノ調律を試みたことがあったが、同様の学科が高校部にあるのは、近年の経済の発展により、ピアノを持つ家庭が増え、調律師の需要が十分あり、職域として成立している。また、高校部には按摩科が設置されているが、日本における盲学校専攻科で鍼灸教育が行われているのとは異なり、中国においては按摩のみである。なお北京盲人学校は、大阪府立盲学校と友好校の関係にある。

3．北京連合大学（3月2日・午前）

筆者らの訪問と時期を同じく、大沼学長、デザイン学科金田教授、研究協力係三浦係長が、天津理工大学聾工科学院を訪問しており、二日目は学長グループと共に、両大学の今後について協議を行った。特に学長からは、筑波技術短期大学が、四年制の大学として準備段階にあり、近い時期に公表できることを強調し、いずれ対等な大学として協力関係が築ける旨が伝えられた。会談テーマの中心は、北京連合大学特殊教育学院および長春大学

特殊教育学院との大学間交流協定締結と、2004年10月1日に開催される第5回国際シンポジウムへの招待であった。その後大学間交流協定は、2004年9月1日に締結され、本学の大学間交流協定締結は7校となった。シンポジウムは、テーマを「中国と日本の障害者高等教育の現状と将来」として、北京連合大学特殊教育学院・曲学院院長、長春大学特殊教育学院・王愛国院長、天津理工大学聾工科学院・鮑国東院長を招き、三氏の講演と全体討論、およびレセプションでの活発な意見交換と研究交流が図られた。

中国の学年暦は10月に始まる前後期制で、春休みがないため、授業が行われていた。デザイン学科金田教授と共に授業風景を見学することができ、聴覚障害学生が受講する平面デザインの講義・実習、また微積分学の講義を拝見できた。微積分学の授業で見学した数学のレベルは、日本における数学の内容で、中国全土から選ばれた学生だけに、真剣さがうかがえた。中国人民の約9億人が持つといわれる農民戸籍を、都市部で定住・就職可能となる戸籍に書き換え可能な方法として、大学卒業資格は数少ない手段であるため、学生の授業に対する取り組み態度の裏付けも理解できる。

4．中国盲人按摩中心（3月2日・午後）

中国盲人按摩中心の中心はセンターの意味である。中国における按摩教育や制度の中心的位置付け機関にあたるが、日本同様に縦割り行政の弊害もあり、保健按摩は労働省にあたる労働部が、医療按摩は衛生部が管轄しており、統一的な行政が成されている訳ではない。



写真3：中国盲人按摩中心の入口プレート

保健按摩の資格は、高校卒業後2年間実務を経験した

後に、受験が可能となる。資格試験には5段階のレベルがあり、初級・中級・高級・技師・高級技師の順に2年をめぐりに試験を受けられる。初級においては、1単位45分の授業を晴眼者は160単位、全盲は240単位を必要とする。また医療按摩は、高校卒業後3年間の教育を、短大または大学で必要とされ、短大・大学の卒業証明と、国家中醫師試験の合格により与えられる資格である。観光客を相手とした脚部按摩、いわゆる足裏マッサージは、資格試験を受けていない者も行っており、中国盲人按摩中心が全てを管轄しているものではない。本制度は2000年にスタートしたもので、1998年以前の教育を受けた者は本制度における資格試験を受ける必要がない。年間7,000～8,000人の盲人が受験すると説明を受け制度として発展途上の感が残る。

5．視覚障害補償機器

北京市盲人学校において、中国語 Windows 版のスクリーン・リーダを紹介された。スクリーン・リーダのソフトウェア開発は清華大学により開発されているが、Windows のバージョンアップに、スクリーン・リーダの開発が追いつかないため、Windows98 が対応版となっている。清華大学の開発グループは、言語学の元教授である茅先生を中心に行われている。現在茅先生は、顧問として、学生の指導にあたっており、かつて日本の富士通などとも交流があり、コンピュータ開発の草分け的な方である。また清華大学では、点字ピンディスプレイも商品化され、日本において(株)日本テレソフトより代理販売されている。



写真4：中国語版スクリーン・リーダ

写真4は北京市盲人学校のもので、音調(四声)の区別が出来ないと音声情報として意味を成さないため、聞き取れる音は、日本語スクリーン・リーダと比較し、音

声品質の良さがうかがわれた。また北京市盲人学校・副校長の説明(3節)で述べたとおり、小学1年から教育に取り入れていることから、精度の高さが理解できる。

日本においては、点字をスキャナで読み取り、画像データを墨字に変換するソフトウェアが存在するが、中国における点字は、音調(四声)情報が40%ほどしか含まれていないため、点字から墨字に変換するソフトウェアは存在しない。また、点字プリンタの見学は叶わなかったが、清華大学と(株)日本テレソフトと開発協定が結ばれている。

視覚障害補償機器で補えない点は、日本同様にボランティアの力に頼らざるを得ないが、日本におけるほどのボランティア組織が出来ていないため、障害者サポートの面で支障がある。

8．まとめ

中国における制度や仕組みを理解するには、一回の説明だけではなかなか理解できない。また、中国における制度そのものも歴史が浅いため、どれほど実現されているかは不明な点が多い。平成16年10月1日には、本学において国際シンポジウムが開催され、今回お世話になった曲学院長が来日された。今後、双方の理解が深まることを希望する。

訪問2日間における通訳は、北京連合大学の学生である厳昕さんをお願いした。厳昕さんは、小学校の6年間で都内で過ごし、日本の実情にも詳しく、特に会談には支障がなかった。また、特殊教育学院のデザイン学科の見学の際は、北海道大学教育学部に留学経験のある豹先生(地理学)が担当して下さった。

本報告内容は、平成16年5月26日18時より、筑波技術短期大学講堂において、FD形式にて報告会を開催した。

9．参考資料

- 1) 北京連合大学 <http://www.buu.edu.cn>
- 2) 特殊教育学院 <http://www.bjuusec.org>
- 3) 清華大学 <http://www.tsinghua.edu.cn/chn>
- 4) 清華大学開発点字ディスプレイ日本販売代理店
<http://www.telesoft.co.jp>

A Visit Report of Beijing Union University

Nobuyuki OHTAKE ¹⁾, Shuichi KATAI ²⁾, Ryosuke FUJII ²⁾ & Masami ONOSE ³⁾

¹⁾ Higher Education for the Hearing and Visually Impaired,
Tsukuba College of Technology

²⁾ Department of Acupuncture & Moxibution, Tsukuba College of Technology

³⁾ Academic Affairs Second Section, Tsukuba College of Technology

Abstract : We visited Special Education College of Beijing Union University from March 1st to 2nd in 2004. In this visitation, we recognized current status of high education of visually impaired, massage/acupuncture/moxibution education and qualify system of massage in China. This is a visit report of Special Education College and relative organizations.

Key Words : Special Education College of Beijing Union University, Blind School of Beijing & China Blind Massage Center.